

2021年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月15日

上場会社名 AI CROSS株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4476 URL <https://aicross.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 原田 典子
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 菅野 智也 TEL 050-1745-3021
 四半期報告書提出予定日 2021年11月15日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	1,823	-	217	-	214	-	310	-
2020年12月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

（注）包括利益 2021年12月期第3四半期 310百万円（-%） 2020年12月期第3四半期 -百万円（-%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	78.57	75.90
2020年12月期第3四半期	-	-

（注）2021年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年12月期第3四半期の数値及び2021年12月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	1,924	1,503	78.1
2020年12月期	-	-	-

（参考）自己資本 2021年12月期第3四半期 1,503百万円 2020年12月期 -百万円

（注）2021年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2020年12月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年12月期	-	0.00	-	-	-
2021年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,529	-	229	-	229	-	332	-	85.02

（注）2021年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）AIX Tech Ventures株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期3Q	4,001,050株	2020年12月期	3,995,050株
② 期末自己株式数	2021年12月期3Q	47,449株	2020年12月期	50,080株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期3Q	3,947,778株	2020年12月期3Q	3,896,518株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

2021年12月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、デジタルトランスフォーメーションの後押しを受け、SMS市場の可能性は高まっております。経営資源の選択と集中により、メッセージングサービスの成長及びHR関連サービスの新規開発は、順調に推移しており、2021年3月31日に公表いたしました適時開示「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。なお、依然として新型コロナウイルス感染症の動向には注視してまいります。現時点において、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。今後、業績予想を修正する必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書…	4
四半期連結損益計算書	4
四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動が制限されるなどの影響が依然として続いており、緊急事態宣言が断続的に発出されるなど、景気の先行きは不透明な状況が予想されております。

当社グループを取り巻くインターネット関連市場につきましては、リモートワークやクラウドサービスの導入を積極的に実施する企業が増えてきており、AIや5Gなどの普及によりデジタルトランスフォーメーションが加速し、IT投資への需要が急速に高まっているものと認識しております。また、当社グループがターゲットとする働き方改革ICT市場におきましては、ソーシャルディスタンスをきっかけに時間と場所に柔軟性を持たせた働き方の多様性が更に求められ、テクノロジーを積極的に活用した業務効率化をはじめ、IT活用のメリットを多くの企業が再認識するとともに、今後益々の市場の拡大が期待されております。

このような事業環境下において、当社グループは、“Smart Work, Smart Life～テクノロジーでビジネススタイルをスマートに”をミッションのもと、AIでコミュニケーションの次元を高める会社として、「メッセージングサービス」(絶対リーチ!SMS)と「HR関連サービス」を展開しております。「HR関連サービス」においては、AIデータ分析を人事領域に組み合わせ、人的資源の可視化・個人最適化による有効活用実現に向けて新規事業を推進してまいりました。

当第3四半期連結会計期間においては、当社グループはコーポレートベンチャーキャピタル部門として、子会社AIX Tech Ventures株式会社を設立しました。当該設立により、従来当社グループが展開しえない領域等のスタートアップ企業との提携及び協業等が可能となり、当該企業が保有する知見及びノウハウ等を融合した、Smart AI Engagement 事業をスピーディー展開していくことのステップを実現することができました。また、当社グループは、経営戦略上、M&A及び資本業務提携等を積極的に推進していく方針であります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,823,006千円、営業利益217,709千円、経常利益214,408千円、親会社株主に帰属する四半期純利益310,214千円となりました。

なお、当社グループはSmart AI Engagement事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,924,646千円となりました。

流動資産は1,750,732千円となり、主な内訳は、現金及び預金1,434,531千円、売掛金275,385千円であります。

固定資産は173,913千円となり、主な内訳は、投資その他の資産105,411千円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は421,258千円となりました。

流動負債は398,182千円となり、主な内訳は、買掛金192,466千円、未払法人税等133,385千円であります。

固定負債23,076千円の内訳は、長期借入金23,076千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,503,387千円となり、主な内訳は、資本金12,167千円、資本剰余金913,018千円、利益剰余金578,748千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、デジタルトランスフォーメーションの後押しを受け、SMS市場の可能性は高まっております。経営資源の選択と集中により、メッセージングサービスの成長及びHR関連サービスの新規開発は、順調に推移しており、2021年3月31日に公表いたしました適時開示「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。なお、依然として新型コロナウイルス感染症の動向に注視してまいります。現時点において、将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。今後、業績予想を修正する必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,434,531
売掛金	275,385
前払費用	26,684
その他	14,921
貸倒引当金	△791
流動資産合計	1,750,732
固定資産	
有形固定資産	20,891
無形固定資産	47,611
投資その他の資産	105,411
固定資産合計	173,913
資産合計	1,924,646
負債の部	
流動負債	
買掛金	192,466
1年内返済予定の長期借入金	18,396
未払金	47,091
未払費用	2,418
未払法人税等	133,385
預り金	4,379
その他	45
流動負債合計	398,182
固定負債	
長期借入金	23,076
固定負債合計	23,076
負債合計	421,258
純資産の部	
株主資本	
資本金	12,167
資本剰余金	913,018
利益剰余金	578,748
自己株式	△653
株主資本合計	1,503,280
新株予約権	107
純資産合計	1,503,387
負債純資産合計	1,924,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	1,823,006
売上原価	1,152,010
売上総利益	670,996
販売費及び一般管理費	453,286
営業利益	217,709
営業外収益	
受取利息	11
営業外収益合計	11
営業外費用	
支払利息	195
為替差損	1,846
支払手数料	1,270
営業外費用合計	3,312
経常利益	214,408
特別利益	
事業分離における移転利益	257,510
特別利益合計	257,510
税金等調整前四半期純利益	471,919
法人税、住民税及び事業税	166,664
法人税等調整額	△4,959
法人税等合計	161,705
四半期純利益	310,214
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	310,214

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	310,214
四半期包括利益	310,214
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	310,214
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使により、資本金が2,167千円、資本剰余金が2,167千円増加、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として2021年5月11日を期日とする自己株式の処分(2,657株)を行ったことにより、資本剰余金が4,528千円増加し、自己株式が33千円減少しております。

また2021年3月26日開催の定時株主総会の決議に基づき、2021年5月31日に無償減資を行いました。この無償減資の結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が460,161千円減少し、資本剰余金が460,161千円増加しております。これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は12,167千円、資本剰余金は913,018千円、自己株式は653千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)

当社は、Smart AI Engagement事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。前事業年度末より、従来「ビジネスコミュニケーションプラットフォーム事業」としていた報告セグメント名称を、AIでコミュニケーションの次元を高める会社への取り組みをより一層明確にするため、「Smart AI Engagement事業」に変更しております。なお、この変更はセグメント名称の変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。